

# 多様な人材 採用・育成

## コンビニで輸送方法体得



### あんしん

総合物流企業のアんしん（照屋勝土社長、沖縄県浦添市）では、障がい者や女性など多様な人材を採用・育成し、組織の活力を高めている。2015年から、障がい者の定期採用を開

始。毎年、特別支援学校や高校から2人ほどを迎え入れている。1日の入社式では男性2人が入社。現在は、19人の卒業生が県内の物流センターなどで活躍中だ。職場のミスマッチによる早期退職を防ぐため、支援学校の就業実習を受け入れている。生徒は2年生と3年生の時に2週間ず

つ、あんしんの本社や常温倉庫、要冷蔵センターで実際に働き、本人と家族、会社で適性を話し合う。就職する場合は、実習結果を踏まえて入社前に配属先を決める。定着率が高まること

研修に取り組む新入社員

とで、先輩後輩のつながりが強まり、リクルートや入社後のコミュニケーションに好循環をもたらしている。支援学校卒業生の元気でひたむきな仕事ぶりは、会社により影響を与えているという。

また、女性の採用も積極的だ。22年度の新卒では大学、専門学校、高校から計8人で、新入社員計20人の半数近くを占め、総合職や乗務員、物流センター作業に配属された。そのうち、高卒2人は大型車の乗務員を希望しており、大型自動車免許取得までの費用や研修を会社がサポートしていく。若手に対する研修には特に力を入れている。全ての新入社員は入社後3カ月間にわたり新人教育を受ける。照屋社長や各部門の管

理者から、経営方針、品質管理、改善活動の知識を学び、グループディスカッションで企画・提案力を養う。ユニークなのは、グループが経営するコンビニエンスストアで実施する販売ス

タッフ研修だ。全ての新入社員は3週間、レジカウンターに立って接客から商品の受け入れ、陳列作業を行い、荷主の立場でベストな輸送方法を体得する。

（上田慎二）